



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第451号 2016年10月23日発行

主の平安が大阪教区の皆様の上に豊かにありますように。大阪教区からカナダ聖公会へ出向し、早いもので4年9カ月が経ちました。2008年うつつ病を患い休職を余儀なくされました。3年半の静養後、大西修主教様と韓国聖公会ソウル教区の金根祥主教様のお計らいで、カナダ聖公会ニューウエストミンスター教区の日系聖十字教会へ派遣さ



カナダ日系教会からの

メッセージ

司祭 モーセ 任 大彬

会員が教区から離れ、聖十字教会でも半数以上の方が教区を去りました。このことが発端となり、日系の聖公会会衆が二つに分かれるという痛みを背負うこととなりました。もう一つの出来事は、カナダ政府およびカナダ聖公会による日系人への迫害の歴史です。第2次世界大戦中、カナダ在住の日系人たちは敵国人扱いされて財産を没収された

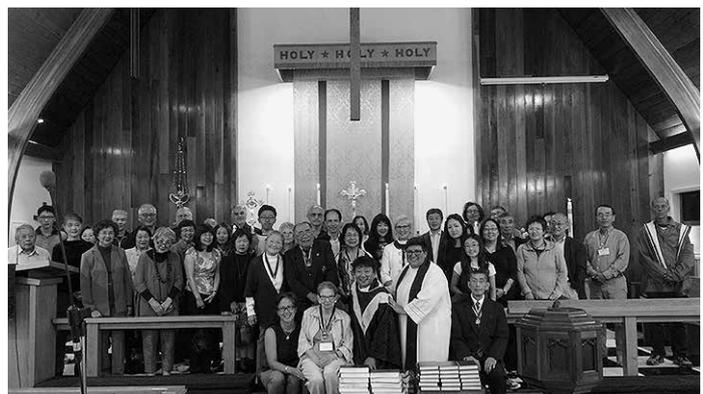
て売却されてしまいました。その理由は、今後一切日本人宣教を行わないという日系への差別に基づいたものだったので。日系人の強制収容および財産の没収等については1988年にカナダ政府によって謝罪・賠償が行われました。そして日系人聖公会信徒の教会を教区が売却したことにつ

いては2010年、ニューウエストミンスター教区主教による謝罪が行われました。

れて現在に至っています。祈りの中でお支えくださる皆様に心より感謝申し上げます。バンクーバーの聖十字教会の大きな二つの出来事をご紹介します。一つは2005年、ニューウエストミンスター教区において同性愛者および、同性愛信徒間の教会での祝福式を認可したことです。この決議を受け入れることができなかつた多くのアジア系の教

挙句、バンクーバーから約800キロ離れた山の奥地に強制収容されたのです。当時ニューウエストミンスター教区には約1,500人の日系人信徒と二つの日系の教会を有していました。戦時中に強制収容所に入れられた日系人たちは、戦後には国中に散らされることになりました。そして二つの日系教会の建物も教区指導者の手によつ

私は現在、日本における在日朝鮮・韓国人及び大阪聖ガブリエル教会の歩みと日系カナダ人及び教会への差別の歴史を共感しつつ、日系という精神を大事にしなから、聖十字教会の今後の方角性をどう見出すか教会、教区の皆様と模索中です。聖十字教会では、毎年9月14日の「聖十字の日」に近い主日に創立記念礼拝を行っています。今年は9月18日午後



カナダ日系聖十字教会創立記念礼拝

5時から、友人・知人そして、教区の聖職たちを招き創立113周年記念礼拝を開催しました。そして、引き続き行われた懇親会では、深い交わりの時を持ちました。礼拝の中では、教会信徒及び日本の教会の皆様への寄付によって備えられた英語と日本語の新しい聖歌集の感謝奉献式も行いました。この紙面を借りて心より感謝申し上げます。ことに大阪教区の各教会よりご寄付頂

(次頁4段目につづく)

広島平和礼拝2016

人間が人間でなくなる瞬間

執事 フランチェスコ 成岡 宏晃

去る、8月5日(金)から6日(土)にかけて、灼熱の日差しが照りつける中、プール学院の高校生4人とともに、神戸教区広島復活教会を中心に行われた、広島平和礼拝に参加してまいりました。

わされながら生きてきた」と語りつづけておられました。

後に、実際に原爆を投下した米軍の副司令官と対面し、広島焼け野原を見渡した副司令官が「わたしは、何てことをしてしまったんだ」と涙を流し続けていた姿を見た時のことを話されました。その時に、「悪いのは、原爆を落とした人間ではない。人間に原爆を落とさせた、人間を鬼

にさせた、戦争がすべてを変えた、戦争がすべての元凶なんだ」と確信されたそうです。悔しさと悲しさ

と力強さが入り交ざるような口調に、聴衆一人ひとり、真剣に平和を作り出す者としての自覚を改めて心に誓っていたと感じました。

高校生も参加した「平和行進」



5つの高等学校(広島女学院、平安女学院、神戸松蔭女

子学院、神戸国際、プール学院)合同での「核兵器廃絶のための署名活動」や「平和行進」からは、「ただ傍観者でいるだけではなく、実際に平和を作り出すために行動を起こすというアクションに自分も参加できて、とてもいい経験であった」という生徒の感想文にもあるとおり、平和を作り出す働きの尊さを感じることができました。

初日の夜には、生徒同士が熱心に「平和のためのこれらのアクションプラン」について分かち合いの時をもち、感じたことをたくさんの人に伝えたいという気持ちで与えられ、その思いを聖餐式で神さまにささげ、またそれぞれの場へと遣わされています。

神さまから与えられている、いのち、と世界への感謝と、謙遜な歩みが平和の礎である。そんな当たり前の一步を、改めて神さまから与えられた2日間に感謝。

(なるおか ひろあき・プール学院中学校・高等学校教員 ヤブレン、城南キリスト教会 会牧師補)

(前頁よりつづく)

いた聖歌集は、聖十字教会への大きな励みとなるでしょう。聖十字教会は毎週29人前後の信徒が出席しています。教会員の半分は日系人で、4分の1は白人、後の4分の1は他のアジア系移民です。礼拝は日本語と英語で行われ、説教も両方の言葉で行われます。日本から留学に来て教会を訪れた人や、日本に帰国した方々も続けて聖公会の教会に

通いたいと言っています。

どうぞ、それらの方々の来会の際は温かくお迎えください。また、バンクーバーに知り合いがおられる方はご紹介ください。そして、バンクーバーに來られる際は是非聖十字教会にお立ち寄りください。(大阪教区司祭・カナダ聖公会 ニューウェストミンスター) 教区日系聖十字教会牧師

主の祭司職として

信徒奉事者研修会

リベカ 田中 史

9月25日(日)、聖霊降臨後第19主日の午後、大阪聖アンデレ教会礼拝堂にて、礼拝・音楽委員会主催の「信徒奉事者研修会(後期)」が開かれました。この研修会は、私たちが行っている礼拝がより豊かなものとなるよう、継続的に一年に2回(前期・後期)、信徒奉事者が学びの時を分かち合うものです。

聖アンデレ教会で行われた前期では、「み言葉の礼拝」の司式や朗読を行うことが多い信徒奉事者のために、テモテ内田望司祭から「み言葉の朗読者」としての奉仕の意義と大切さを学んだ後、三宅享子さんに朗読の見本を示していただき、朗読の実践を行いました。また、各教会で信徒奉事者が担っている役割について

(次頁4段目につづく)

大阪教区
京都教区
共催

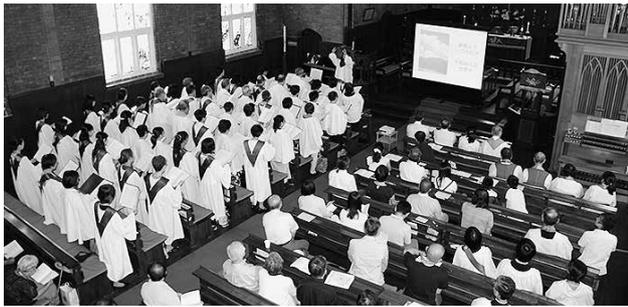
ともに祈る 2016 聖餐式
美しい地と輝く空と

ハンナ 太田 昌子

神様からの希望を信じて何らかの働きをすることを求められているのではないかと話されました。

私は今回初めて教区合同の聖歌隊に参加させていただきました。歌った曲はアンセムを入れて3曲、この聖餐式の祈りにぴったりの曲ばかりでした。初めて顔を合わせての奉仕でしたが、それぞれの教区のリーダーのご指導で、心を一つにして神様に献げる賛美のすばらしさを味わうことができました。

『美しい地と輝く空とわれらをめぐる深き恵みを与えたまえる神をぞたう』聖歌415番の賛美の響きが心に残る聖餐式に参加できたことを感謝しています。同時に、すべての人が環境保全に向けて心を合わせることが必要であること、まずは大阪と京都教区の私たちが同じ思いを持って、一つの目的に向かって働くこ



教区合同の聖歌隊が奉仕

うだるように暑い8月11日(木・休)午後2時より、大阪教区主教座聖堂・川口基督教会にて大阪教区礼拝部・音楽委員会と京都教区礼拝部共催で、両教区協働のわざの一つである合同礼拝(聖餐式)が献げられました。

第2回目となる今回の、「ともに祈る2016」は、宣教の5指標の5番目「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力する」のテーマに基づいた聖餐式でした。



説教者の岩城司祭

この礼拝の中で説教者の岩城司祭は、「今日の自然破壊、地球温暖化による気候変動、核エネルギーと放射能問題など、神様によって創造され祝福されたすべての命が、その存在を危うくされている昨今、私たちの罪に対して祈り懺悔すると共に、教区教派を超えて共に考え努力し支え合っ行って行かなければならない。そのためには私たち自身が自己中心的なライフスタイルを変えて、自然環境を保全し次の世代に渡すことができるように、

(前頁よりつづく)
て共有する機会も得られました。

後期では、多くの信徒奉仕者が担う奉仕「代禱」が、「御父に向って、聖霊の交わりの中で、御子を通して」献げられる共同祈願であること、本来は「み言葉(福音書)への応答」であること、理解して

とが私たちに課せられた課題ではないかと考えさせられました。

(おおた まさこ・高槻聖マリア教会信徒)

公 示

教主降生2016年10月1日
日本聖公会大阪教区
教区会議長 主教 アンデレ 磯 晴久

日本聖公会大阪教区第117(定期)教区会を、
下記のように招集します。

記

日 時 2016年11月23日(水)
午前9時(開会聖餐式)から午後5時

場 所 日本聖公会大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)・会館
大阪市西区川口1丁目3番8号

上記教区会の書記に下記の者を指名します。

書記 司祭 ヤコブ 松平 功
司祭 クリストファー 奥村 貴充



聖職者養成委員会主催の夏のセミナー(8月17日～19日)に参加するのは、私にとって初めての体験でした。どんな3日間が用意されているのか、ワクワクしつつ「カトリック御受難修道会宝塚黙想の家」に向かいました。

OC K
教会奉仕者及び聖職への道セミナー
宝塚で教区を超えた交わり

アンデレ 松山 健作

到着すると顔見知りの方々がたくさんおられ、ホッとしつつ、信徒・聖職合わせて20人程の参加で、黙想のひと時を共有する恵みに与りました。セミナーは、全部で6セッション。「若者に聞く」では、岡増歩美さん(大阪聖三一教会)からGFSと職場であるカフェでの働き、藤井和人さん(奈良基督教会)から同志社大学神学部での学びと教区での働き、それぞれの生き生きとした現在の歩みと働きについてお聞きすることができ、勇気づけられるとともに励まされました。

それと同時にセミナーを通して、教区を超えた交わりの機会を与えられ、私たちが奉仕することに於いて、より力を合わせる必要性、宣教のためのパートナーであるということを確認できたように思います。

2日目は、齊藤壹司祭(大



9月6日(火)～9日(金)に実施された今回のツアーの

日韓の歴史を学び課題を考える

司祭 クリストファー 奥村 貴充

阪教区)より牧会生活44年のエピソード、またそれ以前の聖職になるまでの信仰の歩みが、いかに神さまに生かされ、導かれたかというお話を伺いました。

学びは「現場」との「出会い」において奉仕するなかで生み出されていくのだらうと感じました。私に何ができるのか、どのような現場に遣わされるのか、不安に思うことは常日頃です。しかし、神さまがいつも共にいてくださることを

9月6日(火)～9日(金)に実施された今回のツアーの
 主たる目的は、済州4・3平和公園をはじめとした事件の現場を訪れ、学び、黙祷を献げることでした。特に平和公園では事件で犠牲となった人々の名前が刻まれていたのが印象に残りました。名前は存在そのものを表わしていますが、一人ひとりの存在が抹殺されたということを決して忘れないというのを物語っています。それらを見つめながら、それぞれの人生はどのようなものであったか、もし事件が起こらなかつたならばこれからのような生活を送ることが出来たのだろうか、

信じ、丁寧にゆつくりと、奉仕の道を共に歩む多くの仲間と仕えることができればと願っています。
 (まつやま けんさく・京都教区聖職候補生、ウイリアムス神学館在学中)

これは原因を遡っていけば日本が植民地として支配した歴史事実につながっていきま。そういった脈絡の中でまさに歴史に翻弄されたのが4・3事件の犠牲者と言っても過言ではありません。一方で現代の日本に目を転じてみれば、歴史に関心がなればかりか、ヘイトスピーチが社会問題化してはいますが、こういった状況の中で、戦後生まれの自分もまたこうした責任を負っています。かつての日本人そして今の日本人と同じ言語、同じ文化を共有しているからです。
 今後はこういった課題を背負いつつも、次のステップへ
 (次頁最下段につづく)

シリーズ 聖公会関連施設紹介 ― ⑫

学校法人 博愛社学園

博愛社幼稚園

園長 セシリア 清瀬 光世

本園の母体である「博愛社学園」は、遠く1910年(明治43年)に開校し、翌1911年4月に「博愛社尋常小学校」として文部省の認可を受け、幼児教育(幼稚園)を含めた初等教育に従事してまいりました。

当初は「社会福祉法人施設

博愛社」の子どもたちだけが対象でしたが、昭和の時代に入りましてからは、幼稚園は博愛社以外の子どもたちも受け入れることになりました。

終戦後は、「博愛社尋常小学校」が学校法人として「博愛社小学校」と改組されましたが、1968年にその使命を



園児と遊ぶ清瀬園長(左)



終えて廃校となりました。これと対称的に幼稚園は1967年より再開し、1968年より文部省学校教育法による幼稚園として現在に至っております。

園舎は都会の中にあるにもかかわらず、木々が沢山で四季の移り変わりをとても感じることが出来ます。どの季節にも色があり、音があり、においがあります。それらを五感を通して子どもたちにとっぴりと体験させたいと思っ

(前頁よりつづく)

と踏み出していくために、まずは互いに交流し合い、正しい歴史認識を育んでいく必要があると思われま。今回は過去の負の歴史とこれからの課題について考えさせられるスタディーツアーでした。

(おくむら たかみつ・聖贖主教会牧師、在日韓国・朝鮮人宣教協働委員)

います。幼い時の原体験がやがて、私たちに良いものを与えたもう神さまに感謝することへつながっていくと信じています。

去る9月6日、9日教区主催「韓国・済州島スタディツアー」が開催され、団長として参加しました。7日の夜、済州教会の皆様との礼拝と交流の時間が計画されていきました。済州教会は、開拓伝道に取り組んでお



日韓友情聖堂!!

られ、現在はおもとも倉庫だったところを借りて教会活動をしてられます。私たちが聖堂に入ると、次のように書かれた垂れ幕が目飛び込んできました。「日本聖公会大阪教区の皆様と共に捧げる日韓友情聖堂建築を望む礼拝」

2014年10月に開催された日韓聖公会宣教協働30周年

記念大会共同声明の中で掲げられた11の課題の中に、「両聖公会は、風の島を聖霊の島に」という済州教会の宣教ビジョンを共有し、生命・正義・平和を求める共同の信仰的実践を模索する」とあります。

この垂れ幕は、このことを具現化しようという大韓聖公会からの呼びかけのメッセージでありました。「日韓友情聖堂」建築を、大阪教区として

と同時に、大阪教区にある聖ガブリエル教会も日韓友情聖堂だし、聖公会生野センターも日韓友情センターだし、こひつじ乳児保育園も日韓友情保育園ではないかと改めて気づかされた聖餐式でもありました。皆さまも是非、済州教会の開拓伝道を、祈りの内にお憶えください。

(主教アンデレ 磯晴久)

(きよせ みつよ・西宮聖ペテロ教会信徒)

事 特 集

小学生キャンプ (8/4-6)

8月4日、6日、北小松キャンプ場で、48名の子どもたちが集い、小学生キャンプを行いました。

「出会い」という年間テーマの下、「一同が一つになつて集まっていると」(使徒言行録第2章1節)を主題聖句として、5月から準備を進めてきました。工作、野外料理、琵琶湖での水泳、キャンプファイアー、花火を楽しみました。

子どもたちの感想を綴った『ふりかえり文集』をめくると、子どもたちの生き活きとした時間がよみがえります。



今回紹介した子どもたちの他にも、始めの不安が楽しさに変わっていく様子や、夜空に瞬く星を見つけた感動などが活き活きと綴られています。皆様のお支えに心より感謝致します。

(京都教区 執事 麓(かみもと) 敦子(あつこ))

今回のキャンプで私は最後でしたがとても楽しい思い出ができたと思います。私は福島からさんかしました。やはり京都は暑かったです。びわこに入ったり、スイカを食べたり、キャンプファイアーをやって楽しかったです。とても最高のキャンプでした。

(京都教区 6年 鈴木(すずき) 杏(あん))

グループでピザ作りをしました。具をいっぱい入れてかき混ぜ、ポテチを入れました。とてもおいしかったです。びわこでいっぱい泳ぎました。ボートにも乗りました。友達もいっぱいできて、いっつっつぱい遊んで楽しかったです。6年生とはもう今日でおわかれだけど、中学生キャンプでまた会ってほしいです。くすごしたいです。一番楽しかったのは友達といっぱい遊んだことです。ちょー楽しかった！

(大阪教区 5年 上之園(うへのそのこうせい) 光聖)

グループでピザを作るときに意外とうまくいかななくて難しいです。琵琶湖で泳ぐときに魚がいっぱいいて、ともだちにあみをかりて魚をとって、すぐ逃がしてやりました。ぼくはあと2回これに参加できるけれど、5年は1回、6年は最後なので、仲良くしました。ぼくは来年も参加するつもりなので、次は用意を一人やって、ほかのcampに参加する練習をしたいと思います。

(京都教区 4年 保崎(ほさき) 耀司(ようし))

J's キャンプ (8/8-11,12)

8月8日から12日まで、サン大淀キャンプ場(三重県大淀海岸)でJ'sキャンプ(中学生・高校生世代のキャンプ)を行いました。

られながら、このキャンプが続けられていることに感謝です。

(京都教区 執事 鈴木(すずき) 恵(けい) 一(いち))

加者は中学生7人高校生9人スタッフ8人と、眠る場所を工夫しなければならぬほど多くの参加者に恵まれたキャンプとなりました。テーマは「〇〇との出会い」。このキャンプに参加する一人ひとりが、新しい出来事、新しい人に出会う中で、教会のつながりの豊かさを感じられればと思います。ながらキャンプを進めてきました。

初日は、いる虫とか道とかにもびびってたけどもう慣れてきて、今では大きいクモが出てきても大きくなつたので強くなつたなあって思います。ここで過ごす時間が経つと

また、これまでのJ'sキャンプで高校生だけの時間を持ちたいという声があり、今回は最後の1泊を高校生のプログラムとする試みを持ちました。教会の皆様を支え



(次頁4段目につづく)



OC K
アジア青年大会
(7/27-8/1)

会には日本を含め9力国の青年が集まり、日本からは9教区から12名が参加しました。今大会では「聖公会宣教の5指標」について考えシェアし、各国にどのようにして持ち帰るかを議論しました。大会中はもちろん英語であり、翻訳も通訳もない中行われました。初日その英語に圧倒されてしまい「私はとんでもない所へ来てしまった」と

7月27日から8月1日までマレーシアのクアラルンプールで開催された「CEAアジア青年大会」に参加させて頂きました。今大会



思いました。しかし、私一人で来たわけではないことに加え、神様が遣わしたのならここに来た意味がきっとあると思うと、自然と頑張ろうという気持ちが芽生えました。さて、皆さんは「聖公会宣教の5指標」をご存じでしょうか。正直私は今大会の準備会があるまでは知りませんでした。内容は「①神の国のよき知らせを宣言すること②新

しい信徒を教え、洗礼を授け、養うこと③愛の奉仕によって人々の必要に応答すること④社会の不正な構造を改革し、あらゆる暴力に反対し、平和と和解を追求すること⑤造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」となっています。一回目を通しただけではあまり頭に入っていない内容だというのが私の第一の感想でした。しかし、準備会から大会にかけてこの5指標と向き合い考えていくなかで、私たちがクリスチャンとして生きる上で大切なポリシーというものをご文字化されたものであるという事が徐々に見えてきました

「『宣教』とは友達、家族に大切なもの「神の福音」を伝えることである。ではなぜ『宣教』をするのか、それは「神の愛が理由」である。そして『宣教の5指標』は神からのミッションである」という話が大会中にありました。5指標について様々な考えをしていく中で、私たちの役割は何かということにずっと悩み考えていました。そんな時にこ



（前頁よりつづく）
が本場に早く気がついたらキャンプが終わりそうになっ
ていてびっくりしています。
分らないこともたくさんあ
つていろんなあつていろん
なひとに助けをもらって、
このキャンプを過ごすうち
に、助け合いつて大事な
なことに思つたし、人と
人とのつながりを大切に
しなつて思っています。来
年もこれなら行きたいな
あつて思
の話聞き、雲間から一筋
の光が射したような気分
になりました。5指標を知
ることも一つの段階であ
り、そこから学んだこと
を持ち帰り広めるという
ことが我々の使命ではな
いかと日本人メンバー
で話し合いました。そこ
で私たちは日本聖公会
ではあまり浸透していな
い「聖公会宣教の5指標」
を浸透化させるために、
まず冊子を作るという
計画を立てました。今
大会のために私たちは5
指標
うぐらに本当に楽しくあ
つという間の時間でした。
今回であつた人とのつな
がりを大切に、来年も
また訪れたいです。
（平安女学院高2 堀はるか）
僕は、初めてキャンプ
来たのですが、始めは
みんなとあまりしゃべ
れませんでした。でも、
3日目にはみんなと
話ができて良かったです。
（大阪教区・石橋聖トマス
教会 中1 小松翔馬）
にあてはめて日本聖公
会の青年活動をまとめ
ました。それを冊子に
して様々な人の手に
取って見て知ってもら
いたいと考えています。
私たちが、大会が終
わつてからが始まり
だと考えています。こ
れから「聖公会宣教の
5指標」が広まり日本
聖公会の歩みが始ま
るようになつていく
ように働いていきたく
思います。
（京都教区・大津聖マ
リア教会 久保田愛美）



全国青年大会・U26特別集会

北海道に60人が集う

フランシスカ 内海 理紗子

9月8日～11日、北海道札幌市にある北海道青少年会館コンパスで「全国青年大会2016」が開催され、4年に1度のこの大きなイベントに約60人の参加者が集まりました。

今回のテーマは「あなたとわたしを今をさげろ」、そして、大会聖句は「見よ、兄弟が共に座っている。なんといい恵み、なんといい喜び（詩133：1）」です。このテーマは、新しく出会う仲間達と繋がり、思いを分かち合ってほしいという願いから決められました。主なプログラム内容は、平取アイヌ文化センターと北海道博物館の見学、『アイヌ神謡集』の著者・知里幸恵さんを題材にした舞台の鑑賞、今の北海道を肌で感じるための札幌散策などです。分かち合いでは、見学の感想だけでなく、一人ひとりが感じたこと共有することができました。最終日の聖餐式では、青年たちがグループ毎に作った代祷をお献げし、派遣の唱和を持って青年大会を終えました。その後の11日、12日には、18歳から26歳の青年を対象としたU26（ゆーじろー）特別



人形劇の練習中

9月18日(日)～19日(月)に石橋聖トマス教会で「あつまれ！泊りだ！グループだ！」というグループの青年の交流プログラムを行います。



グループお泊りイベント 教区青年が2日間の交流

クリストファー 小西 宏平

集いが札幌キリスト教会で行われました。まず、年齢別のグループに分かれ、自分たちの教会活動や問題点について話し合い、それらをU26の活動を通して解決するにはどうすれば良いかを発表し合いました。そして、ゲームをして

交流を深め、皆で礼拝をお献げし、一泊二日の特別集会を閉じました。このように、仲間との再会や新たな出会いを通して、神様とより深く繋がれたことを感謝します。（うつみ りさこ・川口基督教会信徒）

した。主な内容は、グループのイベントで行う祈り・礼拝で使用する献金袋の作成や、10月2日の大阪教区礼拝後のキッズ広場で行う人形劇の練習、そして線香花火をしたりと、青年同士で交流できる時間を持つことができました。会場を貸して下さった聖トマス教会の皆様ありがとうございました。今回の交流会に参加した青年からは次のような感想をいただきました。

☆思っていたよりずっと楽しくて、2日間が短く感じた。
人形劇は本番で成功できるよ

うに頑張ります。

☆日曜、月曜と飛び入りでしたが、参加させてもらってすごく楽しかったです！

☆今回初めてグループの集まりに参加しました。

ほとんどが初めて会う人ばかりで、最初はとても緊張していましたが、皆さんとても優しい人達ばかりで、献金袋作りや晩御飯作りなどのプログラムを一緒にこなしていくうちに緊張も解け、短い時間でしたがとても楽しい時間を過ごせました。

特に献金袋作りではみんなで案を出し合い力を合わせていいものを作ることができ、とても楽しかったです。

また機会があれば参加したいです！

今回初めてグループの集まりに来てくれた青年と新しい交わりがあったことに感謝します。これからも新しい交わりがさらに増えることができるようにお願い、グループの活動を行っていききたいと思えます。

（こにし こうへい・高槻聖マリア教会信徒）

今年の「神学生を囲む集い」 恵我之荘聖マタイ教会で

司祭 クリストファー 奥村 貴充



発表中のヒューム神学生

8月28日(日)の午後、今年も神学生を囲む集いが恵我之荘聖マタイ教会を会場に開かれ、全員で112人が参加しました。今回はヒューム・ユーワーン神学生の希望により、今までのウイリアムス神学館での生活とスコットランドの初期キリスト教史(スコットランド聖公会史)の紹介があり、勉強熱心なヒューム神学生の姿勢が伝わってくるような内容でした。もちろん家族の紹介もあり、奥様やお子様の様

子も語っていただきました。また今年のゲームは「3分間説教」と題して、くじで選ばれた教役者3人と神学生が3分間で、与えられた御言葉に基づいて説教をするという取り組みをしました。この説教は何の準備もなく語るというものですが、ヒューム神学生は3分という限られた時間でお話を的確にまとめ、要点をついて語ってくださいました。



講演を行う沖田裕子氏

昨年と同じく神学生の司式、岩城聰司祭の説教による夕の礼拝をお献げしました。集まった信施は「神学生養成資金のため」に献げることとで、ヒューム神学生を物心両面にわたって支え、また新たな神学生が与えられるようお祈りをともしました。

反省すべき点としては、会場の音響の問題で音声が届きづらかったという点、神学生をもっと前面に出して励ます

ような取り組みをすべきだったという点、また家族の紹介をより詳しくしたいという点が挙げられました。来年、ヒューム神学生は3年生です。最終学年にあたり、同神学生

をより身近に感じられるような内容にしていきたいと思えます。(おくむら たかみつ・大阪教区神学生後援会理事、聖贖主教会牧師)

連合男子会 一日修養会

会 演 講 『あなたもわたしも知っておきたい！認知症って?!』

ヨハネ 辻 潤

大阪教区連合男子会の一

ただきました。

修養会が、9月18日(日)午後3時から川口基督教会で行われました。「NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター」代表・沖田裕子氏をお招きし、『認知症になっても自分らしく生きるために』のテーマで講演をしてい

た、46歳の若さでアルツハイマー型の認知症と診断された豪州人クリスティーン・ブライデンさんが、日本に2度来日、自らの体験を綴り、日本語にも翻訳されて出版された2冊の本『私は誰になっていくの』『私は私になっていく』などの紹介もされました。

沖田氏は看護師で、認知症の本人、家族、そしてその支援者のサポートに永年関わっておられます。博愛社の特別養護老人ホーム「博愛の園」の職員の方々のサポート、また、若年性認知症の友人を支える芦屋聖マルコ教会のグループ「チームこれから」の支援にも携わっておられます。講演会は、スクリーンを使って質疑を含めて2時間の学びの時となりました。

認知症とは、その症状(記憶障害など)、最近の認知症事情、認知症の人からの意見発信・活躍の様子、物忘れへの対応策など多岐にわたるお話をいただきました。ま

席上献金を、代表を務められているNPO法人に感謝を持ってお献げいたしました。

5時から1時間は3階ホールで懇親の時を持ち、一日修養会を終えました。設営の準備、演奏、懇親会で川口基督教会の皆さまにお世話になったことに、いつものことながら、感謝です。

(つじ じゅん・芦屋聖マルコ教会信徒)

アングリカン・コミュニオン「宣教の5指標」⑥【最終回】

「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」

司祭 施洗者ヨハネ 山本 眞

「アングリカン・コミュニ

オン宣教の5指標」について

の最後となりました。この指

標は、このシリーズの最初に

岩城聰司祭が説明してくださ

っています(2015年12

月20日の教区報第44号)、1

984年の第6回ACCで提

起され、1988年のランベ

ス会議で確認された4指標に、

1998年になって追加され

たものです。なぜかというこ

とは、どなたでも想像できる

ことです。排水、排気ガスな

ど、いわゆる公害による健康

被害だけと思っていたら、地

球全体が病んでいるような状

況にあることに気づかされて

きました。

「神はご自分にかたどって人

を創造された。

神にかたどって創造された。

男と女に創造された。

神は彼らを祝福して言われ

た。

『産めよ、増えよ、地に満

ちて地を従わせよ。海の魚、

空の鳥、地の上を這う生き

物をすべて支配せよ。』

(創世記1:27, 28)

「神はお造りになったすべて

のものを御覧になった。見よ、

それは極めて良かった。」

(創世記1:31)

「あなたがたはそれぞれ、賜

物を授かっているのですか

ら、神のさまざまな恵みの

善い管理者として、その賜

物を生かして互いに仕えな

さい。」

(ペトロの手紙1:4-10)

聖書は、天地の造り主なる

神様の作品は「極めて良い」

ものであり、その管理は神様

にかたどって造られたわたし

たち人間に委ねられていると

言っています。先に述べたよ

うな、「病んでいる地球」と

いう状況はどこから来たもの

なのでしょう。わたしたちは

暑い日が続くと「異常気象

だ」と言い、豪雨・土砂災害

が続くと「異常気象だ」と言い、

すべてのことを「異常気象」

で済まそうとしていないでし

ようか。これらすべてのこと

の原因は確かではありません。

しかし、わたしたちは、委ね

られているこの地球と環境を

あまりにも自分たちの都合本

位に扱ってきたのではないか

と、心配になって来たのです。

人類の歴史は自然と共存し

ていくことから始まりました。

人間もまた自然の一部だから

です。しかし、いつの日からか、

自然を利用するものとなり、

そして自然と対決するところ

へと変わってきました。自然

は人類にとって乗り越えなけ

ればならない「相手」となっ

てしまいました。自然を征服

することで、人類の「幸福」

を得ようとしてきたのです。

確かに科学の進歩はさまざま

な発見をもたらしました。

今まで人類が利用できなかった

ものを利用できるようにな

りました。その恩恵は偉大で

す。しかし、人間が制御でき

ないものに手を出してしまっ

たらどうなるのでしょうか。

理論通りにいけば制御できる

はずのもので、理論通りに

いかないこともあります。そ

の一番の原因は、わたしたち

人間自身、わたしたちの罪で

す。思い上がりです。100%完

全な人間はいないからです。

この地球上に人類が誕生し

たのは、この地球の今までの

24時間に例えると23時何分か

のことであると、何かの本で

読みました。このわずかの間

に、わたしたちはこの地球上

の素晴らしいものを蹴散らか

してきているのではないかと

危惧します。

環境問題がわたしたちの課

題であるとして取り上げられ

るようになり、「環境教育」

の重要性が官民挙げて叫ばれ

るようになったとき、そんな

プログラムに参加し、関わる

ようになりました。特に、「被

造物の保全とわたしたちの責

任」を考えると、欲しいま

まに被造物を食い散らかして

いるわたしたちの「罪深さ」

を思います。「造り主である

神様への敵対行為」であると

さえ思います。そんなときに

「原発問題」に出会いました。

福島第一原発の事故よりも前

のことです。人間業で制御し

きれない懸念があることに目

をふさいで、排気ガス問題も

なく経済的であるという理由

をつけての賛成論の展開に違

和感を感じていました。そし

て、あの事故でした。「原発

はもういらぬ」という多く

(次頁4段目につづく)

世界の窓

○総裁主教、同性婚への国民投票を歓迎し、論争や中傷に警鐘
(豪州聖公会)

オーストラリア
ア聖公会のフィ
リップ・フライ

アー総裁主教は、同性結婚是非に向けた国民投票について歓迎の意を表しているが、それに関わる論争の高まりについては懸念を表明している。

オーストラリア首相マルコム・ターンプル氏は総選挙において先の国民投票を公約したものの、国民投票そのものを反対する支持者も多い。総裁主教は、2016年は同性婚についての国民投票に向けた民意が高まり続けているとし、聖公会に属する個人々々人々はキリスト教理解に基づき多様性を保持しており、投票することが正しく適切であると語る。また、総裁主教は個人的にも国民投票を歓迎し、熾烈な論争にならないようにと釘を刺している。そして、政府の選挙での公約は果たすべきであり、期待に応えるという合理的な理由もあるとし

て国民投票を肯定する。続けて総裁主教は「クリスチャンにとつて、またその他の人々にとつても、何が社会にとつて最も良いことなのかを考え、自分の良心を投票に反映させることが大切である」と述べ「世論調査が示している通り同性婚は投票によって賛成されるべきであり、教会はそれを現実として受け入れなければならない。そうすることによって、我々は男女間における聖婚を広げ結婚観を持ちながら保つことが可能なのである。男女間における結婚が神のもとで行われるという祈禱書の教義に変化はないし、オーストラリア聖公会の結婚についての教義を改定する必要もない。しかし、教会は二人の人間が互いに愛を誓い合いたいと熱望するその思いについても理解しなければなら

ないだけでなく、その思いを常に尊重しなければならぬ。今、特に私が懸念するのは同性婚について、激しい議論や無意味な中傷に陥ってしまうことである。我々は教会の中でゲイ、レズビアンやその他の人々が拒絶され、裁か

れ、邪魔者扱いされたと感じてきたことを理解しなければならぬ。それがゆえに我々は将来的に、より牧歌的でありより敏感であるという必要性があるのだ」と述べている。
(Anglican Communion News Service, September 9th, 2016)

○シーフェアラーズ・ミッ
ションが韓進海運の乗組員
救済へ

船舶関係者のために世界的な宣教を行っている聖公会のシーフェアラーズ・ミッションは、停泊した船に取り残されている韓進海運の乗組員への救済活動を始めた。韓国の財閥が操業する韓進海運は世界最大級の出荷ラインを誇る海運会社のひとつで、8月に事実上の経営破綻が明らかとなった。その結果、2千5百人の乗組員を乗せた97隻のコンテナ船が入港できず海上に停泊中である。事実上破綻した韓進海運が、荷下しのための代金を支払うかどうか疑わしいと判断されたため、入港拒否されたのである。正義と公正委員会議長ケン・ピータ

(前頁よりつづく)
の意見が、いつのまにか「やむを得ない」という容認論に変えられていくのは、なぜでしょうか。廃炉するにも膨大な時間と費用を要し、使用済み燃料の処理もできないままだというのが、結局のところは、原子力に関する技術力を保持しておきたいという財界の傲慢な思惑でしかないの

ーズ師は韓進海運と乗組員に以下のように書簡を送った。「もし入港拒否され続けるなら、船の食料や燃料はすぐに底をつくだろう。これは乗組員への福祉的危機となる。乗組員はもとよりその家族や関係者たちの心配と悲しみは計り知れない。シーフェアラーズは世界的警告を200の港にわたる我々のチーム全てに通告した。韓進海運の入港時における乗組員への援助の準備は整っている。現在、多くの韓進船は韓国の南に位置する釜山港の外で停泊しながら救済を待っている状態である。」
(Anglican Communion News Service September

でしよう。

もういちど造り主である神さまの前に謙虚になり、「被造物の保全」というわたしたちの管理責任をしっかりと果たしていくために、教会は声を大にして訴えていかねばならないと考えます。

(やまもと まこと・西宮聖ペテロ教会牧師、尼崎聖ステパノ教会管理牧師)

22nd, 2016)

司祭 ヤコブ 松平功
(まつだいら いさお、守口復活教会牧師)

教区の動き

教会・施設の動き

守口復活教会

○11月6日(日) 午後1時30分から「守口復活教会 オータムフェスタ」を開催します。コンサートを主体としたミニバザーです。コンサートの出演者は「ソプラノ歌手・濱崎高子氏、音楽の先生の楽団・わくわく音楽隊、地域のゴスペルグループ・やるきーズ」

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇ 11月9日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ヨシュア 原田光雄司祭

- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920 英)
- 3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
- 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (チャン・ボンヨン 1966)
- 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968 英)
- 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
- 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
- 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
- 12日 宣教師 ドーラ・レイチェル・ハワード (1947 英)
- 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906 英)
- 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
- 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950 英)
- 21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941 英)
- 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
- 23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
- 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950 英)
- ?日 宣教師 アンナ・マリア・タブソン (1940 英)

◇ 12月14日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ヨハネ 木村幸夫司祭

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ (1930 英)
- 2日 主 教 チャイニング・モア・ウイリアムス (1910 米)
- 4日 司 祭 テモテ 山本 登 (2009)
- 13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946 米)
- 16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
- 17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912 米)
- 宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン (1926 英)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888 英)
- 19日 司 祭 ダニエル 小池 虔二 (2014)
- 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
- 司 祭 近重 利澄 (1934)
- 27日 司 祭 ヘンリー・レナード・ブレビー (1942 英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
- 29日 司 祭 マルコ 伊墻 八東 (1978)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 10 時 30 分から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

です。なお、ミニバザーは12時半からコンサート開演時間までですのでご注意ください。入場無料です。
聖贖主教会
○11月12日(土) 13時30分より(開場13時)「子どもと楽しむコンサート」大人も子どもも、共にクリスマスに向けて心の備えをするコンサートです。

高槻聖マリヤ教会
○11月27日(日) 13時30分開場、合唱団「アモロゾ」によるチャペルコンサート開催。入場料500円。終了後ティールタイムがあります。
魂の平安を
祈ります

テレサ (9月6日・95歳) 深水 君江
○大阪聖愛教会
アリマタヤのヨセフ 友井 雅治
(8月13日・81歳) 浅野 一男
○荻屋聖マルコ教会
エステル 米村 春子
(8月19日・83歳)

ヨブ (8月20日・68歳) 佐野 隆
○大阪聖ヨハネ教会
松本 良
(8月21日・96歳)
○大阪城南キリスト教会
トマス 筑田 克夫
(9月14日・90歳)
トマス 今北 富三
(9月30日・75歳)
○荻屋聖マルコ教会
サラ 福永 寿
(9月28日・89歳)

お詫びと訂正
教区報第450号の掲載記事に以下の誤りがありました。訂正してお詫びします。
◎8ページ: 日本聖公会総会報告(5段目13-14行目山本真司祭の肩書)
(誤) 常置委員長
(正) 常置委員
◎12ページ: 祝按手(3段目7行目石橋聖トマス教会の信徒名)
(誤) ルツ貫里見
(正) ルツ貫里美